

特集：スケールとディテール

大きな屋根の家

House Beneath a Large Roof
長野県北佐久郡軽井沢町

矢板久明+矢板直子/矢板建築設計研究所
Yaita and Associates

南側外観。南東向きに30度ほど傾斜した敷地に建つ。斜面に沿って3寸勾配の大きな屋根を架け、張り出した屋根に沿って南東側にL字のバルコニーを巡らせた。外壁はカラマツの下見板張り。



リビングとバルコニーを見る。バルコニーに面するサッシを引き込むと、内部と外部がシームレスに繋がる。リビングの天井高は2,690～3,740mm。バルコニーの手摺り笠木は幅300mmで机としても使うことができる。



リビングからバルコニーを見る。東側の開口は高さ2,210mm、幅はダイニングまで含め7,130mm。

「場所感」の生まれるところ

軽井沢へ移住する、小さな子供と暮らす家族のための住宅である。土地探しの末、南東向きに30度ほど傾斜した敷地を選んだ。その斜面に沿って大きな屋根を架け、アプローチとなる南側には、人を迎えるように屋根と共に、3m張り出したバルコニーを設けた。これを谷側にも折り返し、リビングを囲うようにL字に巡らせた。そして内部と外部を繋ぐように、南に2m、谷側に7mの大開口を設けた。この建具をすべて引き込むと、リビングとバルコニーが一体となる。バルコニーに設けた手摺り壁は低く抑え、机としても使える30cm幅の手摺り笠木を載せた。これにより、安心感が生まれ、この場所に相応しい「場所感」を得た。この手摺り壁によって、9m下の道路レベルに建つ家々は視界から消え、視線は空へと抜けていく。南へ張り出したバルコニーは、山側では屋根を支える壁梁で吊り、

谷側では黒く塗られた鉄の方杖で支えた。リビングは、平面が2倍正方形、高さが3対4の矩形からなる立方体の領域として、全体の比例秩序の中に挿入され、特別な場として山の斜面に浮かび上がっている。南北に架けられた壁梁は、構造体であると同時に、山側では玄関や本棚、キッチンといった暮らしを支える場を囲い、リビングと緩やかに仕切っている。階段を登り、この壁梁を潜ると、一気に視界が開ける。今回は、あえて「場所感」という言葉を使った。私にとっての場所感とは、そこに想いが宿っているかどうか、という極めて個人的な私自身の感覚に基づいており、そこに住まう人たちが「豊かに暮らしてほしい」という、つくり手の心が込められた場こそ、「場所感」が生まれると考えている。一方、近代以降建築家は「空間」という言葉を使い、意識して久しく、素晴らしい建築空間も数多くつくられてきた。しかし、それらは視覚的

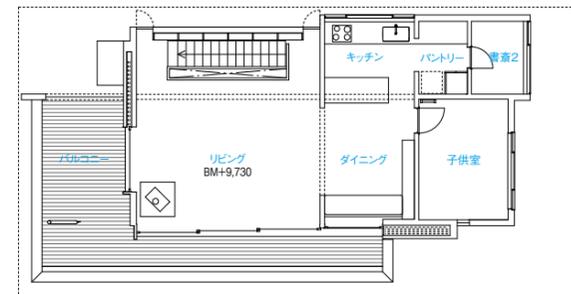
な表現に軸足が置かれ、設計者の実験的検証の場となったことも多かったように感じる。しかし、今求められているのは、建築家の自己表現ではなく、そこにつくり手の想いが込められた場所感のある建築ではないか。その視点で先人の優れた建築に目を向けてみると、日々の暮らしや人の行為を支える数々の工夫に気づかされる。そこには、丁寧につくられたディテールや家具に始まり、部屋に満ちる優しさと知恵に裏打ちされた「場所感」に出会う。これらは、そこに住み、集う人たちによかれと願い、作為を離れ、無心になってつくりあげた時に建ち現れてきたもののように思う。これが時を超えて受け継がれていく建築の知恵に違いない。ここに紹介したプロポーションも、住む人たちのためによき場所をと願ううちに、自然と立ち現れて来た秩序である。あたかも建築が、プラトンのアイデアの似姿に触れたかのように。 (矢板久明)



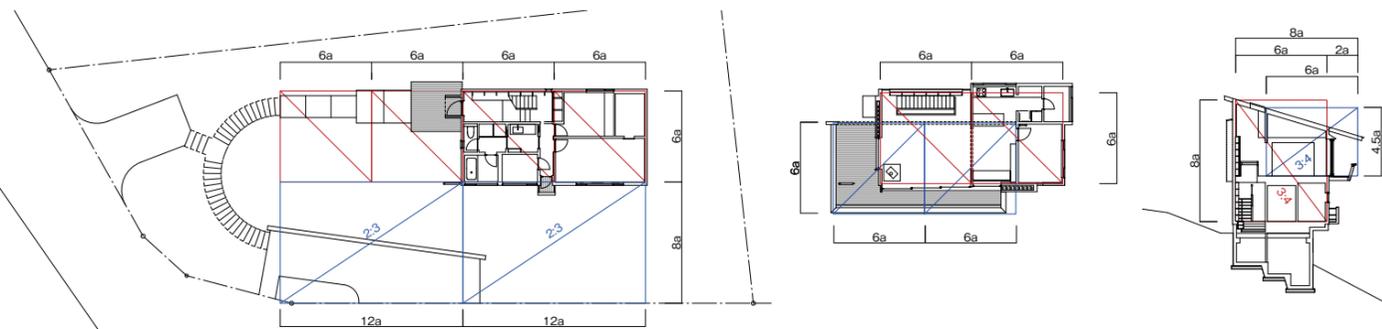
ダイニングからリビングを見る。

開口部について

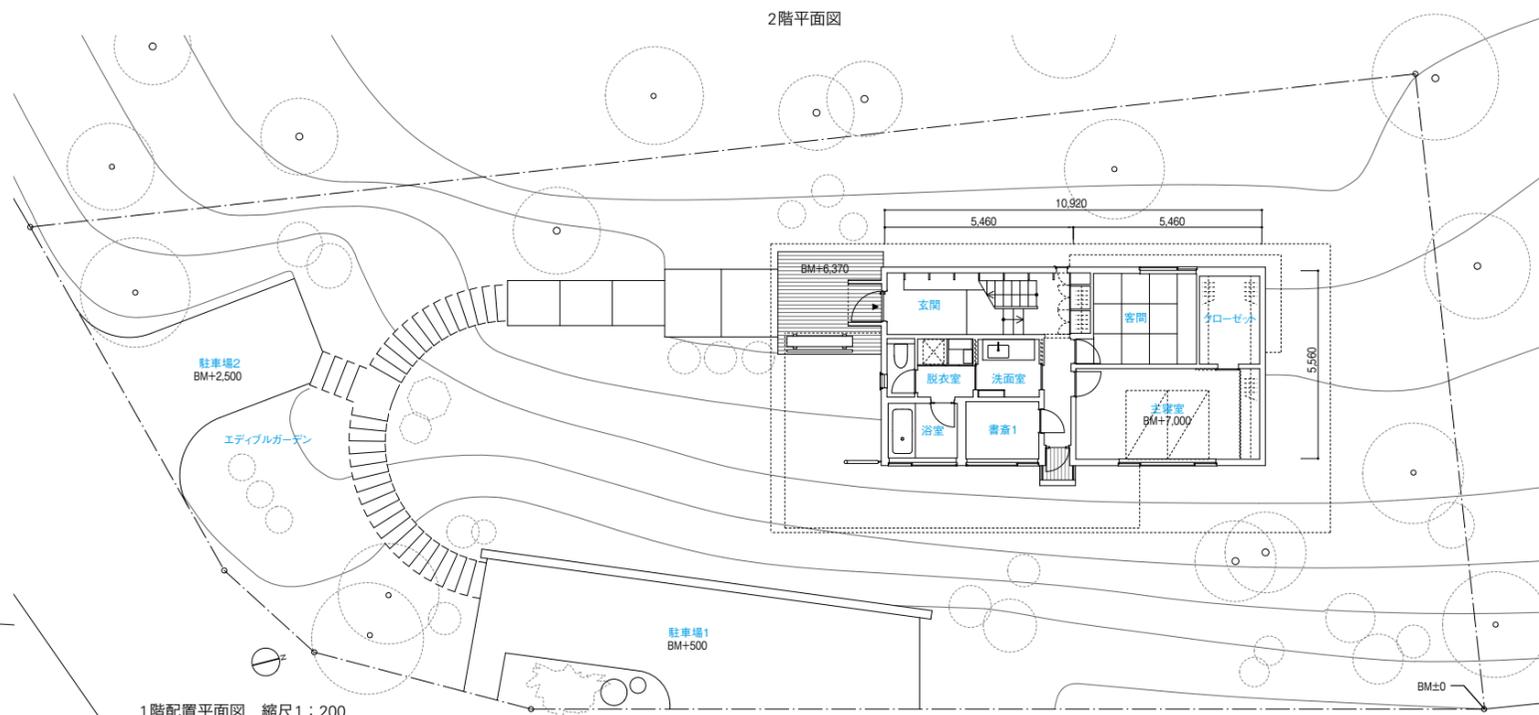
開放感を得たい開口部はできるだけFIXガラスを使わず、開放できるように努めた。ここでは窓枠も見えなくなるように大開口のサッシを完全に引き込める。そして、通風のため、この窓に對面する位置にある本棚の両脇にはスリット窓を設けた。これらの設えは場所感の獲得に大きく貢献した。その効果もあつたか、この夏は2回しか冷房をつけなかったとのことだった。 (矢板久明)



2階平面図



プロポーション図



1階配置平面図 縮尺1:200



階段。上部は吹抜けとし、西側に幅4,350mm、高さ5,070mmの本棚を設けた。



本棚には可動式の梯子を取り付けた。2層に及ぶ本棚のため、硬質樹脂製戸車をスチールプレートで挟み、上下2カ所で梯子に取り付けた。



階段からダイニングを見る。壁梁により空間を緩やかに分節した。

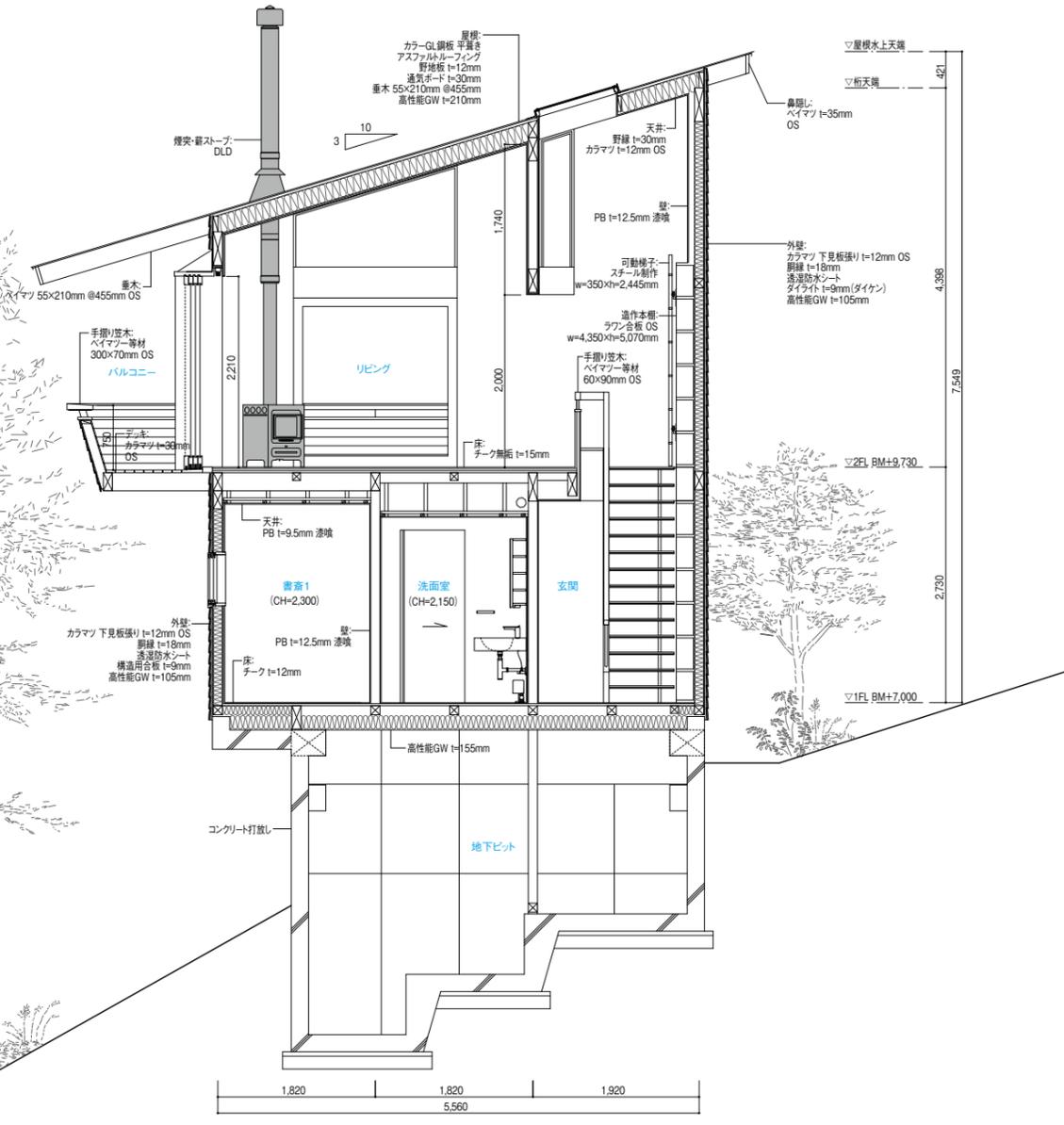
大きな屋根の家

所在地／長野県北佐久郡軽井沢町
 主要用途／専用住宅
 家族構成／夫婦+子供2人

設計 矢板建築設計研究所
 担当／矢板久明 矢板直子
 小沼翔太 栗原佳子
 構造 小島大輔構造設計事務所
 担当／小島大輔
 設備 島津設計 担当／島津充宏
 コーディネート SUVACO



断面詳細図 縮尺1:75



東側外観。

施工 建築工房・市川 担当／市川邦一 市川優太
 設備 長野スーパー 担当／倉島久吉
 電気 市川電気 担当／市川晃明
 基礎 新開建設 担当／小井戸袈裟義
 建方・制作大工 YUIKEN 担当／油井隆雄
 プレカット カネト 担当／高見澤崇
 西村健 (タツミ) 佐藤淳一 (タツミ)

屋根 ヨダ工業 担当／依田卓也
 金属 浅間鋼機 担当／小平一己 井出雄一
 塗装 ヨダ塗装 担当／依田幸司

木製建具・制作家具 ミツルヤ製作所
 担当／瀬津吉通 藤森隆史

外構・造園 箱根植木 担当／保永博文
 長澤仁志 岡田和久

構造・構法 主体構造・構法 木造
 基礎 ベタ基礎

規模 階数 地上2階
 軒高 8,338mm 最高高さ 9,176.5mm
 敷地面積 605.56m²
 建築面積 96.04m²
 (建蔽率15.86% 許容30%)
 延床面積 139.71m²
 (容積率23.07% 許容50%)
 地階 12.00m² 1階 60.16m²
 2階 67.55m²

工程 設計期間 2023年8月～2024年3月
 工事期間 2024年4月～2025年2月

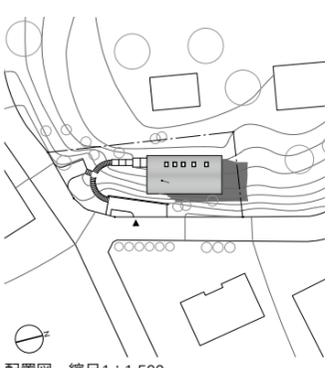
敷地条件 地域地区 長野県景観条例 軽井沢町の自然
 保護対策要綱 法第22条指定区域
 道路幅員 南5.4m 東5m 駐車台数 2台
 外部仕上げ 屋根／カラーガルバリウム鋼板 平葺き

外壁／カラマツ t=12mm 下見板張り (第三木材) OS
 テラスデッキ／カラマツ t=30mm (第三木材) OS
 開口部／木製建具 (ウッドテック秋富) アルミサッシ (LIXIL サーモスII)

内部仕上げ リビング ダイニング キッチン
 床／チーク無垢フローリング t=15mm (IOC)
 壁／PB t=12.5mm 漆喰塗り (ブルーモンタナ)
 天井／カラマツ板張り t=12mm (第三木材) OS
 ブラインド／木製ブラインド (JBS) シェード (ハンターダグラス LOSKA)
 薪ストーブ／DLD Hwam Classic 4
 家具／テレビ台・ベンチシート (ミツルヤ製作所) クッション (制作) (LOSKA)
 厨房機器／モビリティーボ

設備システム 暖房方式／石油熱源機による温水ファンヒーター

撮影／小川重雄



バルコニーは、内部の壁梁で吊りつつ、バルコニーを貫通する黒く塗られた鉄の方柱で支えている。